

# 東京バッハ合唱団 月報

[第 658/659 号] 2017 年 4 月, 5 月合併号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 658/659

April/May 2017

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 宮田光雄先生 『近代ドイツ政治思想史研究』

### ご寄贈に寄せて

大村 恵美子 (主宰者)

このところ、私の先輩・後輩にあたる方々が、相い次いで画期的に意味深い出版をなさり、その貴重なご著書を、続々とご寄贈くださいましたので、合唱団月報の「新刊紹介」の小さな枠内には当分収まらなくなっています。とりわけ宮田光雄先生からは、いくつもの記念の年にあたる、この 2017 年目にかけて、多くの機会でのご寄稿、講演その他イベントと、その成果が伝えられています。

『近代ドイツ政治思想史研究』は、創文社の「宮田光雄思想史論集」(全 8 巻)中の第 5 巻ですが、最終配本として 2017 年 1 月 30 日発行されたもの。これまでに発表されたものを中心に、ルター、カント、ロマン主義などに関し、テーマごとにまとめた論文集です。

地球全体が、これまでとは変貌したような不気味さのただよう現状ですが、それに命がけで立ち向かうような、出版界の全力戦展開、というように、私には感じられます。この第 5 巻そのものの、充実した深い内容は、前述のように、この枠内ではとても扱えそうもないので、「息抜きにでもどうぞ」と、宮田先生が添えてくださった、いくつかのコピーの中から、次の 2 件をとり出して、皆様にご紹介することにします。

①講演「吉野作造先生と私」(2016 年 10 月 15 日、吉野記念館)より<質疑応答>。

②特別寄稿「カール・バルトと子ども賛美歌」より<終わりのことば>(四国学院大学『論集』No. 150、2017 年 2 月 3 日発行、p. 12)

①講演「吉野作造先生と私」より  
<質疑応答>

Q: 関東大震災や 2011 年の大震災など、日本では数え切れないほどの災害があり、死者もたくさん出ています。吉野作造先生、また宮田先生は、こうした天災による人々の苦しみが聖書からどのように導き出されるとお考えでしょうか。関東大震災の際に、クリスチャンである内村鑑三は、東京の人々が退廃しているから災害が起こったと言ったと聞きましたが、天地創造の神が大災害を起こして人々を死に追いやることにど

のような意味があるのでしょうか。

A: 一言でお答えするのは難しいのですが、一人一人の自分の人生に対する関わり方によってしか、この問題は解決できないだろうと思うのです。

東京の人間が罪を犯したからそれに対する懲罰である、というようなことを 3・11 の大震災後にも言う人がいたと記憶していますが、そのような理解はできません。あのような震災にどのような意味があるのかについて、客観的な理論として第三者に伝えることは不可能だと思います。

一人一人が、今まで生きてきたその生き方、また今後、自分がどう生きるべきかという生き方、それを全うしていくことの思想的根拠を絶えず問い続けることの中から、分かってくる、あるいは分からないかもしれない。神がどのような御心を持ってこのような大震災を起こしたのか、その意味はおそらく私たちがこの地上で生きている限りは分からないと申し上げた方が良いかと思います。

分からないけれども、自分は自分の人生をこのようなものとして生きていこう、という自身の思想的根拠を絶えず問い続けることによって、それを耐えて、あるいは担って、生きていけるのだと思います。

.....

Q: 昨今、右傾化、偏ったナショナリズムが危惧されていると思います。とりわけ憲法の問題では、集団的自衛権を閣議決定で行えるようにしたことを非常に問題視する向きもありますが、それについてどのようにお考えでしょうか。

A: 現在は非常な危機の時代だと思います。それは日本だけではなく、世界全体で同時にそうなのだと思います。

#### 月報 4 月, 5 月合併号 CONTENTS (全 8 頁)

- ・川戸龍夫氏の三年忌(室田千晶) … p. 3
- ・誕生日お祝い浅草ツアー(写真集) … p. 4
- ・新刊紹介 2 題(大村恵美子)  
ティク・ナット・ハン [著]  
『イエスとブッダ—いのちに帰る』 … p. 5  
佐治 晴夫 [著]  
『宇宙が教える人生の方程式』 … p. 7

います。ですが、私は希望を捨てておりません。人間の目から見れば非常に悲観的な状況にあっても、希望をもち続けることが大事だと思います。

アメリカ大統領選挙、あるいはEU離脱をめぐるイギリスの国民投票も見れば、デモクラシーの先進国だと思っていた国ですら、ポピュリズムが広がっています。それを考えれば、日本のようなデモクラシーが未熟な、率直に言えば民度の低い国において、かつ今のマスメディアの状況にあって、現政権が国民から高い支持を受けているのも当然だと思います。しかし、当然だというのは正当だという意味ではありません。

結局、この問題をなんとかするためには、一人一人の国民がデモクラシーに対する民度を高めなければなりません。たとえば、オリンピックの報道ばかりが過熱しているような最近のマスメディアは異常ではないか、恥ずかしいのではないか、という感覚を持たなければなりません。東京五輪の次にあたる2024年夏期五輪の招致を目指していたローマでは、新市長が招致の立候補を取り下げ、市民がこれを支持しているそうです。デモクラシーの先進国だと思われてはいなかった国でも、そうした希望の種をもたらず出来事はあるのです。

希望をもってデモクラシーへの民度を高めるということは、吉野作造先生の思想が教えてくれることでもあります。まずは野党が野党らしい出处進退をし、そしてその野党と一緒に行動する市民の意思があることを示し続けていくことが重要だと思います。状況は絶望的ではないかと思える向きもあるでしょう。しかし、講演の中で「馴らされた犬儒派（ティムド・シニック＝冷笑家）」というニーバーの言葉に触れましたが、我々はシニカルにならざるを得ない、ただし、希望は捨てない、と。それは私がクリスチャンであるということに拠るところが大きいのですが。

それに関連して、昨2015年に『カール・バルト—神の愉快なパルチザン』（岩波現代全書）を刊行しました。バルトはヒトラー政権の登場する、最近の日本の状況に似通った中であっても、力強く、ユーモアを以て戦う姿勢を取り続けた人物です。そして、第二次大戦中も希望を捨てないことの大切さを、スイスの人々のみならず、ヨーロッパ中の人々に呼びかけました。そういう可能性もあるのだということを、一人一人が心の中に持ち続けることが大事だと思います。

……………

**Q**：ドイツ現代史には関心がありますが、先生のご専門の著書は難しく、どうしても挫折してしまいます。

**A**：岩波新書から出した『ナチ・ドイツと言語——ヒトラー演説から民衆の悪夢まで』（2012）をぜひお読み下さい。この本では『ナチ・ドイツの精神構造』（1991）で論じたことにも触れていますが、それには書いていない、特に私の研究の中で最もおもしろい部分を選んで、事例研究として取り上げています。まだ絶版にな

っておりませんので、自分の本の宣伝になってしまうようですが（笑い）。

---

## ②特別寄稿『カール・バルトと子ども賛美歌』より 〈終わりのことば〉

（…）以上の話と結びつけて、最後に、「日本の友へ」宛てたバルトの手紙から引用して終わりとしませう。

「どうか私の名〔カール・バルト〕を担ぎ上げないで頂きたい。それは、この世では興味ある名前は、ただ一つある〔すなわち、イエス・キリスト〕だけだから」と。「私の本から、あなた方がイエス・キリストに導かれる時にこそ、あなた方は私を正しく理解したことになるのです」。

この手紙は、さらにこう続けられています。「良い神学者というものは、いつも自分の家〔＝立場〕から外に出ます。彼は、いつも途上にあります。彼は、神の遠い山々、神の高い山々、神の無限の海原を、眼前に眺めます。

そして、まさにそうすることによって、西や東の世界の人びとを、親しい身近な人間仲間として見出し、彼らのために自分がイエス・キリストの証人として生きることが出来るのです」。

この高きにいます神を仰ぎ見る信頼から生まれる「力強い」生き方。それによって無力感や劣等感から解放され、この世界の中で、自分の存在をかけがえのない一個人として受け入れることのできる「落ち着き」。こうした生き方から初めて、同じ悩みを持つ他者に目をとめ、同じ人間仲間として連帯して生きていく「開かれた心」も持つことができるようになるのです。

バルトによれば、私たちは「他の人を喜ばせようとする時にだけ喜ぶことができる」。だから、喜びもまた、一つの「社会問題」だ、というのです。他人の不幸を喜ぶことからは、明るい喜びが生まれません。むしろ、他の人びとと共に明るく笑い、喜び合えるような人間関係や社会生活を作ることについて、私たちは責任があるのです。

現在、私たちの周りには暗い不安をかもし出す時代状況が取り囲んでいます。こうした中で、バルトの生涯を貫いた「力強く、落ち着いて、喜びをもって」生きていくという姿勢——この「晴朗な精神」をもつことこそ、いま、私たちがバルトから学ぶべき最も重要な事柄ではないでしょうか。どんなに困難が多くても、新しい未来の可能性に向かって希望と勇気をもって生きていこう。

日本の民主主義を本当の民主主義にするために、一人ひとり、いま与えられている持ち場に踏みとどまり、なお残されている自由な選択のチャンスを生かしながら、この課題に積極的に取り組んでいこう。さまざまの政治参加を通じて——批判的川柳の新聞投書か

ら、街頭での市民的な抗議の行動、少なくとも次の選挙で主権者として一票を投ずる行為にいたるまで。この障碍多き日本社会において、《未完のデモクラシー》を根付かせる努力を続けることは、長い時間のかかる、大きな忍耐をとまなう困難な課題です。それ故にこそ、「心のゆとり」を失ってはならないのです。バルトの信仰と生涯が示してくれたように、「笑いとユーモア」を忘れないで！ なぜなら、あの子ども賛美歌にある「われ弱くても 恐れはあらず！」(HE is strong!) という根源的な神信頼の根拠が失われることは決してないからです。

「月報 2月号、3月号を興味深く拝見しました。とくに小海さんの〈ニケア信条〉はよく調べたご論考でした。」(宮田光雄先生より、ご寄贈書のしおりに)

## 川戸龍夫氏の三年忌

室田 千晶 (団員・アルト)

2017年3月4日(土)に川戸さんの三年忌「偲ぶ会」が行われました。場所は、小田急線新百合丘駅そばの「ホテル・モリノ」です。

川戸さんは、30年以上にわたり我が団で歌い続け、長老ながら気さくで皆さんから慕われ、天に召される1年前の《ヨハネ受難曲》(2014年3月)を最後に、後援会に回られました。私事ながら、私ども夫婦の結婚式の証人にもなっていたいでいました。

さて、我が団からの参加者は、S: 光野孝子先生・川合満里子・荒井せつ子、A: 高野京子・白井昭子・室田千晶、T: 大村健二・宮城幸義・村山英司・小海基・室田悠介、B: 加藤剛男・森永毅彦・白井均・久保庭重夫・室田悟の16名。他に15名ほどの合唱団が2組、ひ孫

さん数人を含めた御親族とその他の方々が40名ほどでした。午前中は、栗平教会で葬りの礼拝と、墓地での埋葬が行われましたが、3つの合唱団員は、人数が多いので遠慮しました。納骨がこの時期になったのは、献体に出されていたご遺体が、去年の11月に戻ってきた為でした。バッハのモテット3番に「肉にはあらず」とありますが、クリスチャンの献体意志を聞くにつけ、信仰の強さを感じます。

12時からの「偲ぶ会」開始に先駆け、30分前には、既に他の合唱団が、ステージ上でリハーサルをしていました。その後、私達も1回だけ通しの練習をさせていただきました。司会は、川戸さんのご長男のご友人。よく家に遊びに来ては、むしろお父さんに会うのが目的だったほどの仲だったとか。白いテーブルクロス丸テーブルに8名ずつすわり、ビュッフェ形式の食事をいただきました。ステージの横のテーブルには、ご遺影の他に、川戸さんが生前作成した家系図レポートや旅行記、子供の頃からの写真が6、7枚ほど飾られました。演奏ステージは、一段高く設置されて、スポットライトもある広い壇でした。

演目の最初が当団でした。初めに加藤さんの挨拶があり、川戸さんの団での人となり、演奏曲目を紹介しました。当時の川戸さんを思い出す、暖かいお話でしたので、思わず目頭が熱くなりました。モテット3番の冒頭コラール「イエス 喜び」、カンタータ82番の3曲目のアリア「まどろめ 弱れるまなこ」、カンタータ147番の最終コラール「イエス わが喜び」の順番で歌いました。私の拙いピアノ伴奏でしたが、皆さんの合唱はすばらしく、心のこもったものになりました。光野先生も、一緒に歌っていただいて、ありがとうございました。

次に、川戸夫人から直接お電話でリクエストをいただいたシューベルト《冬の旅》から、「菩提樹」と「春の夢」を、私の伴奏で主人が独唱しました。3カ月の練習期間をいただきましたが、田中奈美子先生からもご指導を受けて、難しい曲に挑戦するチャンスをいただいた事に、本当に感謝しています。

その後、他の2つの合唱団、ヴァイオリンのソロの演奏があり、最後は「今日の日はさようなら」を全員合唱しました。川戸夫人の従兄弟様が挨拶をされて、会はつつがなく終わりました。出口で見送ってくださった川戸夫人とお別れをし、合唱団の練習が始まる荻窪教会へと急ぎました。外は、3月の初めにしては、暖かく良いお天気でした。川戸さんの人徳を感じさせる、とても良い会でした。



■在りし日のT川戸龍夫さん(中央)。その奥B松村敏夫さん(故人)、手前B山口健一さんと(野尻湖にて、1984年8月)

# 恵美子先生、86 歳のお誕生日 お祝い浅草ツアー

2017 年 3 月 9 日

## 【行程】

- 10:30 集合：雷門向かいの「浅草文化観光センター」  
→ 仲見世を通過して浅草寺で参拝→ 伝法院通り  
から六区を抜けて、西浅草「染太郎」へ散策  
12:00 お好み焼き「染太郎」で昼食→ タクシーで向  
島の「長命寺」へ  
13:15 長命寺で桜餅とお茶をいただく→ 隅田川土手  
を歩き、言問橋を渡る→ 吾妻橋まで川沿いを  
散策  
14:40 吾妻橋で水上バスに乗船→ 浜離宮または日の  
出棧橋で下船・解散

## 【参加者】

- 大村恵美子（主宰者）、田中克彦（団友）  
S 荒井せつ子・佐藤啓子・百鳥洋子  
A 栗田昌江・小野久美・風岡和子・清水英子・高野京  
子・田口博子  
T 大村健二・小海基・林貞敬  
B 加藤剛男・久保庭重夫・白井均・森永毅彦

■ T小海 基さん（荻窪教会牧師）と。  
（撮影：A 栗田さん）



■ 3/9、浅草のシンボルを背景に集合写真  
（撮影：B 白井さん）



■ 吾妻橋の袂にて、  
団友の田中克彦さん  
（手前）、T大村と。  
（撮影：S 百鳥さん）



■ 3/18、荻窪教会練習場にて（撮影：A 小畑さん）

大村 恵美子 (主宰者)

■ テイク・ナット・ハン [著]

## 『イエスとブッダ——いのちに帰る』

(池田久代 [訳]、春秋社、2016 年 11 月 25 日)

広告を見て、ぜひ読みたいと思ったこの本を、もう 1 冊のクラウディア・リンケ『ドライ・ラマ 子どもと語る』(訳・森内薫/中野眞紀、2016 年 8 月 8 日、春秋社)と共に、第 114 定期演奏会にご来聴になった高梨公明様が、私にプレゼントしてくださった。一夜あけて雑用が片づくや否や、私はテイク・ナット・ハン(ヴェトナム 1926 年生、1966 年フランス亡命の世界的仏教者)の同上書(1999 年全訳)のほうを、さっそく読んだ。例によって、評論など加えるスペースがあれば、1 行でも多く著者のすばらしい内容を直接引用紹介したいというのが私の思いで、ここでも、「20 世紀のイエスとブッダたちが助け合って地球の平和と幸福を実現するための実践知が説かれている」(訳者あとがき p. 228)という、その中から、6 章あるうちの第 1 章「理解が生まれる」、第 6 章「イエスとブッダは兄弟」中の一部分を直接羅列してみたいと思う。あとはすべて、各位が精読されて、豊かな恵みを得られるようにとねがうばかりである。

### 第 1 章 理解が生まれる

#### 第 2 章 わが家へかえる

#### 第 3 章 御子よ、われに來たれ

#### 第 4 章 法身—眞理の身体をもとめて

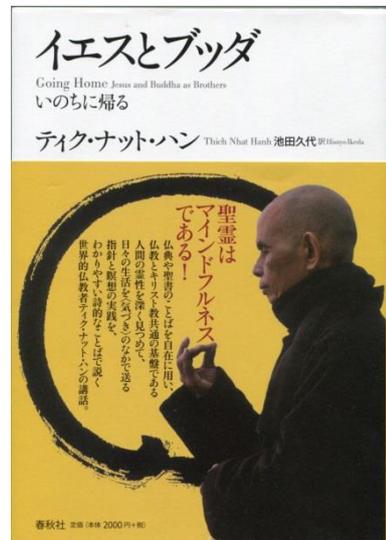
#### 第 5 章 愛の意味

#### 第 6 章 イエスとブッダは兄弟

### 第 1 章より——

◇A. ジッドは、神は毎日 24 時間私たちのもとにおられるといいました。…神を享受できないのは、…神に触れる力がない、神を享受する力がないからです。(p. 5, 6)

◇ものの関係にはふたつのレベルがあります。第 1 は自分と他の生きものとの関係です。…「水平の神学」は、人間、動物、植物、鉱物を含む、まわりの世界とのつながりに気づかせてくれるのです。…これらのものとのつながりをとおして、やがては神に触れることができるようになるからです。神に触れることは垂直的関係を象徴しているので、「垂直の神学」と呼ばれます。…あなたが人や動物や植物を愛さなければ、神を愛せるかどうかは、はなはだ疑問です。神を愛する力は、あなたの人類や他の種を愛する力にかかっているからです。(p. 6)



◇ブッダの教えのなかに、「此(これ)あれば、彼(かれ)あり」という教えがあります。…他の波があるから、この波が存在する。他の波があのようなだから、この波はこのようにあるのだ。自分に触れたら、全体に触れることができるのです。自分自身と他のものに深く触れることができたなら、あなたは別の次元、究極のリアリティの次元に触れることができるのです。(p. 7)

◇ものの世界を深く見つめたら、ひとつのものが他のすべてのものを包含していることがわかるのです。…深く見つめる練修は、ひとつのものは他のすべてのものからできていることを明かしてくれます。ひとつのものの中に全宇宙が包含されています。(p. 8)

◇縁起の法則について語る際には、どちらのレベルの話をしているかに気づかなければなりません。現象界のことか、あるいは、究極の次元(ヌーメナ)のことか。両者を混同しないことが重要です。…私たちは本体と現象を深く見つめて、両者は別ものであることを理解しなければなりません。(p. 9, 10)

◇私たちは現象のことについては語れますが、本体の世界についてはそうはいきません。神を概念や言葉で説明することはできないからです。(p. 10)

◇現象の世界にたつぷりと深く触れることができなければ、本体である存在の基盤に触れることはむずかしいし、不可能です。(p. 11)

◇究極の次元に触れれば、大いなる安心が訪れます。…この世の現象に深く触れれば、本体の世界に触れることができるのです。…私たちが涅槃について何か語ることができるのであれば、それは観念や概念を超えたもの、ということくらいのもので。(p. 12)

◇どこか別の場所、あるいは、未来のいくつかの涅槃を求める必要はありません。まぎれもなくあなたこそが涅槃だからです。あなたの存在の基盤が涅槃なのです。(p. 13)

◇キリスト教は、時間とエネルギーを費やして、神は人格かどうかを議論してきました。しかし仏教では問題になりません。…実在のなかに深く浸透していくことができたなら、観念から逃れることができます。(p. 15)

◇無常とは現象世界にあるものの現実のすがた(実相)です。…すべてのものが無常だとすれば、永遠に存在する実体はないということです。無我とはこのことです。無我は、人格をもたないとか、存在は無だということではありません。あなたは無我だが、身体や感情、知覚作用、心の形成物、意識をもったひとりの人間として生きている。ひとりの人間として生きているが、他から独立した自己をもたないのです。(p. 21, 22)

◇現象界に深く触れたら、不生不滅の領域である究極の次元に触れるのです。究極とは涅槃であり、神です。そしてそれは、毎日 24 時間、いつでも私たちの手がとどくところにあるのです。…生も死もないという本性にめざめるには、たっぷりと時間をかけて、私たちのなかにあるマインドフルネスのエネルギーに深く触れることが大切です。(p. 27)

◇実在の本質を深く見つめたら、去・来、存在・非存在の観念が超越されるのです。条件を整えば、あなたの目に映って、あなたは「自分がここにある」と言うことができる。…あなたの愛する人がその目に見えなくなったからといって、今まで存在していた彼女が、存在しなくなったのではないのです。…自分自身を深く見つめていけば、死、すなわち無に帰することへの怖れが越えられるのです。(p. 28)

◇このように、キリスト教では存在を教え、仏教では非存在を教えるというのは正しくありません。少しでも仏教を学んでみたら、仏教の修業が存在と非存在をともに超越するためのものと理解されるでしょう。(p. 29)

◇マインドフルネスと理解と慈愛があるとき、苦しみは軽くなり、幸福なきもちになります。あなたがそこにいるだけで、まわりの人たちも幸せを感じはじめるのです(p. 34)

◇あなたがマインドフルになったら、他の人の苦しみが見えてきます。苦しみが見えると、突然、その人の苦しみを減らしてあげたくなるのです。苦しみからその人を救ってあげるためにしてはいけないことと、その人を安心させるためにあなたにできることがわかるのです。…あなたが敵と思っている人が苦しんでいて、その苦しみをとめてあげたいと思った瞬間に、その人は敵ではなくなるのです。(p. 35)

◇たったひとつだけ敵を愛する方法があります。深く見つめる練修です。…「慈悲の目」は見つめて理解する目です。理解が生まれたら、慈悲の心が知らぬまに立ちのぼってきます。深く見つめて理解する目が「慈悲の目」なのです。(p. 36)

◇仏教では、理解こそが愛の基盤であると学びます。理解とは、深く見つめる過程といえるでしょう。…彼らのなかの苦しみに気づいた瞬間に、相手を責める気持ちは消えて、あなたのなかの苦しみがおわります。…その苦しみの大半は、あなたが自分自身や、他の人々を理解できないことが原因だとわかるでしょう。

…もしもあなたが自分や他者のなかにある苦しみに深く触れたら、理解が生まれます。理解が生まれたら、愛と寛容が生まれて、苦しみを終わらせるのです。

(p. 37, 38)

◇クリスマスを祝う最高の方法は、マインドフルに歩き、マインドフルに坐り、物事を深く見つめることです。苦しみがまだここ、私たちひとりひとりのなかにあること、世界中にあることに気づくことです。苦しみを認め受け入れてはじめて、何日も何か月も私たちに責め苛みつけてきた苦しみに、自分を解放することができるのです。仏教は説いています。苦しみを深く見つめると、苦しみの本質が理解できる。そのとき、幸福になる方法が見つかる。仏教では、涅槃は平和、安定、自在と説かれます。平和、安定、自在がいま・ここで、24 時間私たちの手がとどくところにあることを悟るには、練修が必要です。…たとえばそれは、波にとっていつでも手のとどくところにある水のようなものです。波は水に触れて、水がいつでもそこにあることを悟るだけでいいのです。(p. 38, 39)

## 第 6 章より——

◇鐘の音を招いて耳を澄ますと、心のなかに静かで、揺るぎなく、喜びに満ちたエネルギーが湧きあがってくるのです。…仏教寺院の鐘の音も、東方正教会の鐘の音も、カトリックの教会やプロテスタントの教会の鐘の音も、本質的にはみな同じです。(p. 173, 174)

◇何事につけ、機が熟すにはときが必要です。十分な条件が整うと、長いあいだ心にひそんでいたものが呼び覚まされます。…自分の伝統に深く根を張っていれば、他の伝統への理解がさらに深まります。大地に根ざした木のようなものです。木は移植されても、新しい土壌から養分を吸収していきますが、ほとんど根こぎにされた木には養分を吸収する力がありません。(p. 175, 176)

◇根をもつことは、対話への架け橋です。誰も自分自身の伝統の根を奪われてはなりません。私はみなそれぞれ自分の伝統に戻ってほしいと思うのです。仏教の練修がその手だすけとなるはずです。(p. 179)

◇あなた自身の文化に根づいていれば、別の文化に触れて、そこにしっかりと根を張るチャンスが訪れます。これはとても大事なことです。(p. 180)

◇飢えた魂をたすけるためには、まず彼らの信頼を得なければなりません。飢えた魂は猜疑心が強く、なんでも疑ってかかります。ほんとうに美しいもの、善きもの、真実なものを見たことがないので、あなたを疑い、あなたがさしだすものを拒絶します。飢えているのに、どんなに滋養のある食べものをさしだしても、それを口に入れて咀嚼する力がないのです。(p. 182)

◇身のまわりの美しいのちに触れると、私はいつも幸せになります。こんなにもたくさんの美しいものに囲まれて生きていると気づいて、深い感動を覚えるこ

とがあります。(p. 184)

◇聖霊とは、自分の中の否定的なエネルギーを抱きしめて世話をするために必要な心のエネルギーです。マインドフルネスを練修する人たちにとって、マインドフルネスのエネルギーはブッダのエネルギーでもありますが、クリスチャンの友が聖霊と呼ぶものと同じものなのです。聖霊はある種のエネルギーで、いま・ここで理解し、受け入れ、愛し、そして癒す力です。…あなたは聖霊に身を任せて、聖霊にみちびかれ、灯火のように照らされていけばいいのです。まさにその瞬間に、イエスはあなたのなかに息づくのです。(p. 192)

◇「もし今日、イエスとブッダが出逢ったら、ふたりはどんな話をするのでしょうか。」私ならこんなふうに返事をするでしょう。——ふたりは今日と言わず、昨日も、昨夜も、明日だって出逢っていますよ。ふたりはいつも私のなかについて、おたがい同士がこころ静かにつながっています。私のなかではブッダとキリストのあいだにいかなる不一致もありません。ふたりは本物の兄弟であり、本物の姉妹です。」(p. 193)

◇ブッダとイエスはおたがいなたすけあうふたりの兄弟です。仏教はたすけを必要としています。キリスト教もたすけを必要としています。それは仏教のためでもキリスト教のためでもなく、人類全体のために、そして地上の生きとし生けるものたちのためにです。…ブッダとイエスは毎日、毎朝、毎午後、毎夕、眞の兄弟になるために、ともに働かなければなりません。ふたりの出逢いが世界の希望です。私たちひとりひとりのなかで、ブッダとイエスは一瞬、一瞬、出逢わなければなりません。(p. 197, 198)

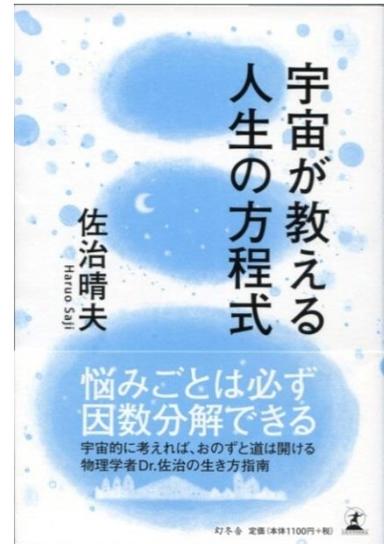
◇これは新しい時代の幕開けとなるでしょう。人々がもっと寛容になり、もっと多くの人たちが他の伝統の美しさと価値を見ることができるようになります。それはちょうど料理のようなものです。フランス料理が好きでも、中華料理を愛してはいけないという道理はありません。合意に達するのに100年かかっても、それでもやってみる価値があります。この結論に到達することができたら、私の世代やその前の世代の人々のように、若者たちは苦しまなくてすむようになるでしょう。(p. 199, 200)

■佐治 晴夫 [著]

## 『宇宙が教える人生の方程式』

(幻冬舎、2017年1月25日)

『東京パッハ合唱団 半世紀の歩み』p. 196には、「佐治晴夫：物理学者、JAXA 宇宙連詩編纂委員会、鈴鹿短期大学学長、スタジオ 200《マタイ受難曲》講座出演」とあります。1982年4月に、私たちが第1回の《マタイ受難曲》定期演奏会（創立20周年記念）を演奏する



前、西武百貨店スタジオ 200 と提携して 10 回連続の公開ゼミナールを設け、その時、講師のおひとりとして、佐治氏がユニークなお話をなさって以来、30 数年ぶりに、私は、新聞広告で知り、発売直後に手に入れたのが、この新刊です。175 ページの新書スタイルで、とても読み易く、いずれ話題沸騰と察せられますので、ほんの一部分、目下の私たちが《ロ短調ミサ曲》仕上げに専念しているのに、大いに役立つと思われる個所をつまみ食いさせていただきます。どうぞぜひご一読——完読を。

<p. 3> 私自身のことでは、二・二六事件の前年、昭和 10 年 (1935 年)、その事件現場の一つとなった東京の住宅地の近くで生まれました。

<p. 4, 5> 芸術への道はとても無理だという自覚から、芸術と同じく美の追求である数学と物理学の道に (…)。1977 年に打ち上げた探査機、ボイジャーに、地球から未知の宇宙へのメッセージとしてパッハの音楽を搭載することの提案 (…)、科学と芸術とを融合する新分野、数理芸術学の提唱などがきっかけとなって、音楽大学大学院教授として最晩年を迎えることになりました。(…) 過去が単純に未来を決めるのではなく、未来が過去の価値を大きく変える (…)。

<p. 6> 本書がめざすところは、(…) 大いなる自然の営みや広大無辺な宇宙のひとつかけらとしての人間への賛歌であり、(…) あなたの幸せと、さらには世界平和への小さな方向づけになってもらえたらという願いをこめたものです。

<p. 13> 宇宙を構成する主要元素の優先順位は、水素、ヘリウム、酸素、炭素、チッ素で、ヘリウムを除けばヒトと同じです。(…) 「自分」という言葉は、文字通り「自」然の「分」身だということなのです。(…) 年を重ねるということは、(…) 多くの経験を重ねることでもあり、直観力はより鋭くなっていきます。

<p. 14>教育とは、まさに、「わかる」ことによって「かわる」プロセスなのです。

<p. 31>地球に大災害をもたらしたとされる最も有名な天体衝突は今から 6500 万年前にメキシコのユカタン半島に巨大な隕石が落下した事件で、当時、地球を制覇していた巨大恐竜の絶滅の原因になったといわれています。

<p. 32, 33>2036 年 4 月 13 日には、もし衝突すれば広島型原爆数千個分のエネルギーで、日本列島の太平洋側を高さ 100m の津波が覆い尽くすだろうと予想される小惑星アポフィスが接近します。今のところ、(…) 地球の引力の影響で軌道がずれ、衝突は免れるだろうとの予想です。

<p. 40, 41>音の高さは弦や空気などが 1 秒間に何回振動するかで決まり、(…) オーケストラで音合わせをする時に使うのは通常、440 ヘルツで、(…) 不思議なことですが、この音は統計的に見ると、赤ちゃんが出生時に発する産声の高さに近いそうです。

<p. 132, 133>ギリシャ時代の「万物流転」から仏教の「諸行無常」に至るまで、人は自然を移ろうものとしてとらえてきました。(…) これを物理学では「ゆらぎ」と呼んでいます。

<p. 134, 135>「ゆらぎ」の性質を別の言葉で表現すると「半分、予測できて、半分、予測できない」ということになります。これは、私たちが、日常生活を送るためには、好都合な性質です。(…) 他者との付き合いにおいても、適当な間合いを持った緩急の「ゆらぎ」がなければ長続きしないでしょう。「ゆらぐ」ことは、生きていくのに不可欠な条件なのです。私たちの人生でも、目標を定めたら、その周りで試行錯誤を繰り返し、ゆらぎながら、そこに向かっていくことになります。サン=テグジュペリがいうように、愛するとは、互いに相手と見つめ合うことではなく、同じ目標に向かって(ゆらぎながら)進んでいく営みだともいえそうです。

<p. 138-140>脳に信号が伝達される速度は視覚からよりも聴覚からの方が速いという実験結果があります。(…) 大ざっぱですが、西洋の歌曲をうたう時のような、喉の力を抜いて透き通った感じのトーンは、相手に対し客観的な立場からの内容伝達に適しており、その一方で、尺八に息を強く吹き込んだ時のようなどちらかといえば、濁った感じの音は、相手の心により近づいた印象を与えます。内容の強調には声を大きくするよりも、声質の変化の方が効果的のようです。(…) つまり、話し方の音声の中に、話し手の全人格が投影されているということです。

<p. 152, 153>私たちは、外界から入ってくる物理的な情報を脳が処理することによって感覚として感じているわけで、そこに関わる作用全体を漠然と

心だといっているのでしょうか。(…) 釈迦によると行動の善悪についての正しい評価とは、その行動が相手の未来にどのような影響を及ぼすかどうかによると教えています。

<p. 167-169>私たちの認識は、強引な言い方をすれば、「ある」か「ない」かの二者択一です。しかし、時には、相矛盾する両者が補い合って、一つの原因風景を形成する場合があります。人間にしかできない記憶と想像力が織り成す世界です。(…) 二人の人が、ある問題について、話し合っていて、なかなか意見の一致が見られないとします。それは、双方とも、自分の立場に固執しているために、合意が得られないという状態です。その場合、ちょっと見方を変えて、双方の意見の違いに目くじらを立てるのではなく、共通点がどこにあるのかを探す努力をすることによって、一挙に解決に向かうことがあります。(…) 争っている人々は、いずれも自らの心の安泰が最終目的でしょう。それを達成するために、ゆずり合う、あるいは、自分と相手と立場を入れ替えるというのが、(…) 数学の解法の中にも、生き方の教訓があるのですね。

## 東京バッハ合唱団 夏の活動スケジュール

～ 後援会・団友、OB・OG、お友だちのみなさん、  
ぜひご参加ください ～

### ◆合唱団創立 55 周年記念 演奏会と祝会

『キラキラ星変奏曲』(松尾茂春・詞/曲)、他

[日時/会場] 7/1 (土) 14:00～17:00、荻窪教会

[演奏会入場] 無料 (予約が望ましい)

[祝会参加費] 会費 500 円 (軽飲食あり、要・予約)

### ◆野尻湖合宿演奏会 (期間: 8/3～6、木～日)

#### ○公開ワークショップ (市民、滞在客のみなさんと)

フィリップ・ニコライのコラール(BWV140 より)を覚えませ

[日時/会場] 8/4 (金) 19:00～21:00、野尻湖公民館

[参加費] 無料 (要・予約)

#### ○神山教会コンサート

・合唱: カンタータ 187 番《待ち望むみななれを》より

・ピアノ独奏: 《最愛の兄に寄せるカプリッチョ》(pf 鈴木真帆)

・合唱: 《口短調ミサ曲》より 抜粋 6 曲

(グローリア)、(地に平和)、(肉をとりて)、(十字架に)、

(主は甦りたもう)、(平和をわれらに)

[日時] 8/5 (土) 16:00～17:30

[会場] 野尻湖国際村・神山教会 (NBA オーティウム)

[入場料] 無料

(いずれも、6 月号までに詳細をご案内します)